兵庫県立伊丹西高等学校 47 回生　学年通信 no.15　　1/28(水)発行

万緑一紅

発行者　第1学年教職員

歌留多大会を行いました！

○学級対抗の部　優勝 1 組　準優勝 6 組　3 位 2 組

○名人十傑(予選と決勝の合計枚数)

1位	(2 組)	90 枚
2 位	(3 組)	76 枚
3 位	(1 組)	64 枚
3 位	(1 組)	64 枚
5 位	(1 組)	61 枚
6 位	(3組)	59 枚
6 位	(7組)	59 枚
8 位	(1 組)	55 位
9 位	(4 組)	54 枚
10 位	(2 組)	53 枚

先週水曜に行われた 47 回生歌留多(百人一首)大会。各クラスでの予選によって割り振られた40グループに分かれ、極寒・厳寒・酷寒を吹き飛ばすかのような熱戦が各所で繰り広げられました。和気あいあいとした全体的な雰囲気の中で、ピリッとした緊張感があるグループもあり、日本の伝統である百人一首に親しみ、嗜むよい機会となったのではないでしょうか。47 回生全員が同じ時間に同じ場所で、一つのことに一生懸命に取り組む。何かを全員でやるとなったときの前向きな姿勢と積極的な取り組みは 47 回生の集団の強みだと感じました。取った取られた、勝った負けたもかるたの醍醐味ではありますが、各行事や学校生活のあたりまえの積み重ねの中で、それよりも大切なものをこの 1 年間で築けたのかもしれませんね。2025 年度も残すところあと 2 か月と少し、やる気があまり余って、思わずお手付きしてしまったときの「チャレンジ精神」を忘れずに、何事もやってみる、続けてみる、進んでみる、そんな気持ちを大切にしてください。

百人一首（小倉百人一首）について

編纂の背景と経緯

依 頼 者 ： 鎌倉幕府の有力御家人で歌人でもあった宇都宮頼綱。

場　　所 ： 京都・小倉山にある頼綱の山荘（嵯峨中院山荘）。

依頼内容 ： 山荘の襖に貼る色紙に、和歌を書いてほしいという依頼。

選　　者 ： 藤原定家（正二位権中納言）（『明月記』に記録あり）。

（権中納言定家(ごんちゅうなごんさだいえ)

藤原俊成の子、十四歳で高倉天皇に仕える

生没年　応保2年～仁治2年 ／ 1162～1241 年

選 定 歌 ： 天智天皇から順徳天皇までの約 550 年間、十の「勅撰和歌集」から、和歌を選出

恋（43 首）　雑　（19 首）

秋（16 首）　春　（6 首）　冬（6 首）　夏（4 首）

旅（4 首）　離別（1 首）

女流歌人（21人）　僧侶（15人）

古今集（24 首）　後撰集（7 首）　拾遺集（11 首）　後拾遺集（14 首）

金葉集（5 首）　詩花集（5 首）　千載集（14 首）　新古今集（14 首）

新勅撰集（4 首）　続後勅撰集（2 首）

成立時期の根拠

定家の日記『明月記』の文暦 2 年（1235 年）5 月 27 日の記述が、編纂のきっかけとされているが、これが百人一首の完成形だったかには諸説ある。

学術的には、百人一首の成立は 1235 年前後、13 世紀前半と推定されている。

百人一首の広まり

もともとは和歌集として選ばれたが、室町時代に連歌師の宗祇が研究・紹介し、江戸時代には絵入りの歌かるた（競技かるた）として庶民の間で広く楽しまれるようになった。

日本のかるたは、主に賭博に使われる外来のかるたと、教育を目的とする歌がるたに大別される。

百人一首は、歌がるたに分類される。歌がるたは、平安時代の貴族の間で流行した「貝覆（かいおおい）」や「貝合（かいあわせ）」から創案された。

「かるた」はポルトガルから伝来した遊戯で、ポルトガル語の「carta」が語源であるとされる。

「競技かるた」とは、百人一首を使って早取りを競う競技のこと。明治時代中期に、ジャーナリストの黒岩涙香（くろいわ・るいこう）が百人一首のルールを統一し、明治 37 年（1904）に全国競技会を開催したことが始まりとされる。